

みんなで作る

森ものがたい

2019年6月23日発行 第130号

油山自然観察の森
森を育てる会



〒811-1355
福岡市南区大字桧原855-1
TEL: 092-871-2112
FAX: 092-801-8661
<http://www.morikai.org/>
mail: aburayama@morikai.org



<4/21 カブトムシの森>

も	表紙	1
	活動ノート(3/24,4/7,4/21,5/12,5/26,6/9)	2~3
く	特集「カブトムシの森・アカマツ林 五ヶ年保全計画」	4~6
	油山のお仕事日記「乙女系」	7
	リレーコラム「夜の昆虫調査」	7
じ	うん・えー会報告(3/9)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は（公財）福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

活動ノート



3月24日(日)
アカマツ林作業
9:30~15:00



◆参加者：松雪、林、迫、早川奈奈・千尋、鎌田、榊 計7名

◆内容：今回の作業は、これまであまり手が付けられていなかった遊歩道下のC地区でのシダ刈りです。このエリアは斜面が極めて急なため、シダが茂り放題になっていた場所で、特にガケ状になっている箇所では人が埋もれてしまうような状態になっていました。作業に携わる会員は、2名早退ということもあって実質上4名のみ。それでも、さわやかな春の中での作業、また草刈りのベテランの復帰ということもあって、4歳の千尋ちゃんの明るいしゃぎ声を聞きながら楽しく作業を続けることができました。おかげで、予定範囲の7~8割程度のシダを刈ることができました。おそらく、次回の作業で残りの分のシダ刈りは終わることができそうです。草刈りは地味で結構キツイ作業ですが、刈った後の林のきれいさは充実感一杯の気持ちにさせてくれました。

【ふりかえりより】

- ボカボカの光の中でのんびり過ごせました。(早川)
- 実生マツが結構あるので嬉しく作業をしました。(迫一郎)

4月7日(日)
アカマツ林作業
9:30~16:00



◆参加者：松雪、国広、鎌田、妹尾、平野(陽・光・正・結・綾)、迫(一)、橋本、静間、榊 計13名

◆内容：今回の作業内容は、B~C地区で刈り残されているシダ刈りと、D地区の小灌木やクスノキの除伐です。作業はシダ刈り班2班、除伐班1班とに分かれ、10時半頃から開始しました。シダ刈り班は、子供たちを中心とした班がB地区付近の緩斜面部、また経験・体力があるメンバーがC地区の急斜面で作業を行いました。また伐倒班は、午前中に直径5~10cm程度の小灌木を10本程度、午後からは直径20cm程度のクスノキの除伐を行いました。B~C地区で繁茂していたシダはほとんど刈り取ることができ、これまでとは一変したきれいな森の風景となりました。また、D地区の除伐でも、スダジイやクスノキの大径木を除くと、見通しの良いすっきりした斜面となり、我々の活動エリアの端部であるF地区の階段がC地区から見通せるようになりました。

【ふりかえりより】

- 久しぶりに楽しく過ごせました。(橋本)

4月21日(日)
カブトムシの森作業
9:30~15:30



◆参加者：静間、松雪、織田、林、鎌田、平野家5名、柴戸、中嶋、吉田 計13名

◆内容：午前中は全員でB地区斜面の草刈り、ササ、常緑広葉樹実生及び萌芽枝などを刈り取っていきましました。大分繁っていましたが、スッキリしました。午後はA地区で2組に分かれて伐採をしました。一組は東側でホオノキの伐採。かかり木になりそうなヤマハゼを先に伐ってから、ホオノキに取り掛かりました。遊歩道に向けて倒すので、来園者に注意しながら、ロープを張って万全を期しました。もう一組はB地区との境界付近で、今後のクヌギ伐採に障害となるアカメガシワと成長の悪いクヌギを伐採しました。葉が茂る前とはいえ、枝処理にかなりの時間が掛かりました。気温が高く若干バテ気味でしたが、ほぼ時間通りに作業を終えることが出来ました。

【ふりかえりより】

- 午前中はハンモックがたのしかったです。ごは木をきりました。(平野結)
- 調査区外の植物も見て、春を堪能しました。(柴戸)

5月12日(日)
安全講習会
9:30~15:30



◆参加者：鎌田、林、橋本、砂田、
静間、古寺（和・風）、榎、加藤
（体験）計9名

◆内容：今回は、安全講習会
です。午前中は座学、午後は伐
採実習をしました。座学では、
伐採作業に入る前にすること
から始まり、対象木の選定や足
元の準備、伐倒方向の決め方な
どなどを学びました。午後はカ
ブトムシの森に移動し、A地区
の樹高20m程度のクヌギを切
りました。まずは、周りの状況
把握、伐倒方向を決め、受け口、
追い口を入れ伐倒しました。体
験の方を中心に作業をしてもら
い、水平に切ることに苦労しま
しましたが、真直ぐ倒れ、切り口
も言うことなしの結果となり
ました。森会は、大きな木を伐
倒するという危険な作業を行
うため、今回のような講習会は
大切だと思います。会員も忘れ
ていることもあるので、伐倒を
する際には、皆で手順を確認し
ながら、今後も作業をしていき
たいと思います。振返りの中で
新入会員には安全講習会への
必ず参加してもらうようお願い
しようという意見が出ました。

【ふりかえりより】

- ・初めて伐倒、伐採について詳
しく勉強したので難しかった
ですが楽しかったです。（古寺）
- ・きれいに伐倒できて良かった
ですが参加者が少ないのが残
念でした。（静間）

5月26日(日)
カブトムシの森作業
9:30~15:30



◆参加者：鎌田、国広、長澤、
小川 計4名

◆内容：今回は、カブトムシの
森の草刈り作業に先立ち、まず、
保護する植物のマーキングを
行いました。全域の保護植物と
しては、伐採したクヌギの萌芽
枝・実生、エノキ、ヤマザクラ
に加え、カブ森の中でも1本
しかない、また、一株しかない
植物もあり、木本、草本各10
種程度をマーキングしました。
午後の草刈り作業では人数が
少ないのでA地区に草丈の高
い植物の除草を中心に行うこ
ととしました。草刈りについて
は、遊歩道の両脇は管理事務所
で除草を行ってくれることと
なり、少し肩に荷がおりました。
A地区は二人で概ね草刈りを
終え、藪化するのが防げました。
作業の中でヒメヒオウギズイ
センの駆除を行う予定でした
が人手不足のため、手が出せま
せんでしたが駆除に繋がるヒ
ントがありました。それは球根
が子株をつける前だと子株を
取り残すことがなく、また、花
が咲く前だから実が落ちること
も気にせず引き抜きができる。
よって見えている葉を引っ
張り球根を引き抜くそれだけ
で駆除ができます。次に生かし
たいと思います。

【ふりかえりより】

- ・木を伐採して明るくするとい
ろんな草花が現われることが
分かりました。（長澤）

- ・保護する草木のマーキング、
森の中で風を感じながら野鳥
の声を聞きながらゆったり回
れてとても良かった。（国広）

6月9日(日)
グリーンウッドワーク体験会
9:30~15:30



◆参加者：鎌田、静間、川上、
平野（光、陽、正、結、綾）、
杉尾（さ、ね、陽）、古寺（和、
風） 計13名

◆内容：初めに、グリーンウ
ッドワーク、削り馬、ドローナイ
フなどの説明をしました。その
後、センター前に削り馬を並べ、
入門編の「小枝の色えんぴつ」
作りから始めました。削る作業
は無事にできましたがクレヨ
ンの芯を穴に入れるのが難し
かったようです。その後は各自、
スプーン、バターナイフ、カッ
ティングボードに挑戦。時間が
足りずに皆、満足のいく作品に
はなりませんでした。何とか
形はできました。出来上がった
作品を見て次に向けて振返り
しました。ドローナイフ、削り馬
の使い方が少しわかってもら
えたかなと思っています。みん
な、時間も無い中で夢中になっ
て取り組んでくれてよかった
と思います。

【ふりかえりより】

- ・初めてエンピツが出来て嬉し
かった。おうちに帰ってまた作
りたいと思いました（杉尾ね）

カブトムシの森・アカマツ林

五ヶ年保全計画 2019～2023

会では五年毎に現状やそれまで行ってきた活動を振り返り、参加する会員の総意のもと目指す森とするための保全計画を立て整備を行っています

「カブトムシの森五ヶ年保全計画」

基本理念

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

全体に対する関する整備内容

- ・クヌギの更新を行うために皆伐を行い、皆伐の後には①常緑樹を伐採する。②草花・実生を育成する。
- ・飼育小屋は完全に撤去するか、土台は残しベンチや荷物置きに利用する。事務所が作成する（調整中）
- ・昆虫の多い森にするためには間伐などで切った材は森に残して土に還す。
- ・昆虫を増やすことを狙った樹種を育成する。
- ・珍しい植物を保護育成する。⇒ラベルを付ける

A 地区の整備内容

- ・クヌギ・コナラを皆伐・萌芽更新し、他の樹種は高木を除いて残し、順次複層林化し、落葉樹の里山とする。
- ・成長が速い樹種は順次伐採・更新する。
- ・ヒメヒオウギズイセンを除去する
- ・湿地はヤブ状態になるのを防ぐために草刈りを行う。

B 地区の整備内容

- ・せせらぎは、子供たちが楽しめるように整備する。
- ・林道側の大径木は、管理事務所に伐採を依頼する。
- ・東側のヤブツバキの森が暗いイメージなので間伐する。

C 地区の整備内容

- ・皆伐を目指す作業はA地区を優先し、C地区は近接している木から伐採する。⇒A→C→Bの順
- ・北側および東側が暗く、入りづらいイメージである。⇒階段上の名板を入口に移設する。
- ・下層植生を豊かにするための方法として、過去の勉強会で学んだ「刈った草は別の場所で処理＝斜面 10m×10m」と「裸地を作る＝堆肥ヤード跡地 10㎡」ことを行う。

- ・キャンプ場側からの進入路は橋を直し、林道との間の灌木を除伐して、見通しを良くする。
- ・植栽木は伐採する。
- ・排水口を樹木で遮蔽する。

「アカマツ林五ヶ年保全計画」

テーマ 「いつも元気なアカマツ林」

～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～

夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林全体に対する関する整備内容

- ・貴重な樹木以外の観察木は伐採する。その他保存する樹木はマツタケの育成に必要なソヨゴ等、景観上必要なサクラ、ヤマボウシ等の樹木、昆虫等が誘引できるクサギ、コシアブラ、エゴノキ、タムシバ等の花木とする。
- ・松くい虫被害で伐倒処理されたアカマツの幹等の処分の方法に問題あり、今後の枯損処理では県、市との調整が必要である。
- ・シュウラン、フデリンドウ、キキョウ、トンボソウの仲間、オケラ、イチヤクソウなど貴重な植物を保護育成する。

A 地区の整備内容

- ・アカマツ林の入口は、誘導するサインの設置や遊歩道の左右を伐開して明るいイメージの入口にする。
- ・炭焼き小屋裏を伐採してアカマツが見えるようにする。
- ・他の区域では見られない規模でヒヨドリバナ、シハイスミレが見られ、貴重なため保護が必要である。

B 地区の整備内容

- ・幼木の調査区より先は管理しない。
- ・手前は除草等の管理を行う。

C 地区の整備内容

- ・5年前は照葉樹林だったが、伐採により日当たり良好になった。
- ・今後は、実生、幼木の保護、低広葉樹は残す
- ・遊歩道の階段改修

D 地区の整備内容

- ・幼木が密生している為、間伐が必要

E 地区の整備内容

- ・日当たりが良くなり、実生が急速に発生している。
- ・谷側の広葉樹の除伐、新しいヤード作り、アカマツ大径木まわりの整備が必要である。

F 地区の整備内容

- ・伐採作業に先立ち、作業路を設ける。

カブトムシの森五ヶ年保全計画図

カブトムシの森五ヶ年保全計画図 2019～2023

基本理念

「落葉広葉樹を主体とした里山を育成・維持し、カブトムシに象徴される昆虫や多様な動植物が生息・観察できるような森づくりを目指す。」

C 地区

- ・皆伐を目指す作業はA地区を優先し、C地区は近接している木から伐採する。
- ・北側および東側が暗く、入りづらいイメージである。
- ・東側は、小径木の一部を伐採するだけでも明るくなると思われる。
- ・下層植生を豊かにするための方法として、過去の勉強会で学んだ「刈った草は別の場所へ処理」と「裸地を作る」ことを行う。
- ・植栽木（ユリノキ、エングレなど）は伐採する。

- ・堆肥ヤードを撤去する
- ・サインの表示面を更新する。（躯体を利用して表示板を貼る）
- ・飼育小屋は上部を撤去し、板張りの休憩場所とする。
- ・ヒメヒコウギスイセンを撤去する

- ・飼育小屋は上部を撤去し、板張りの休憩場所とする。
- ・堆肥ヤードを撤去する
- ・林道側の大径木（タブノキなど）は、管理事務所に伐採を依頼する。
- ・刈り草を待出し処理で植物の生育を観察するエリア

A 地区

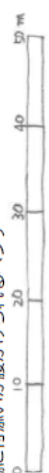
B 地区

C 地区

A 地区

- ・これまでの「クヌギの大径木を育てる」という計画から萌芽更新していく方針に変更する。
- ・クヌギ・コナラを皆伐・萌芽更新し、他の樹種は高木を除いて残し、順次複層林化し、落葉樹の森とする（底木は常緑樹も複層林にするために保存する。）
- ・成長が速い樹種（シンジュ、ホオノキ、クマノミズキなど）は順次伐採・更新する。

- ・排水口を樹木で遮蔽する。
- ・キャンプ場側からの進入路は林道との間の灌木を除去して、見通しを良くする。
- ・堆肥ヤードを撤去する
- ・裸地で植物の生育を観察するエリア
- ・せせらぎは、子供たちが楽しめるように整備する。また、せせらぎの脇に付添いが腰かけられるベンチ
- ・珍しい植物（ハナイカダなど）をラベルを付けて保護育成する。
- ・東側のヤブツバキの森が暗いイメージなので間伐する。
- ・湿地は現状維持



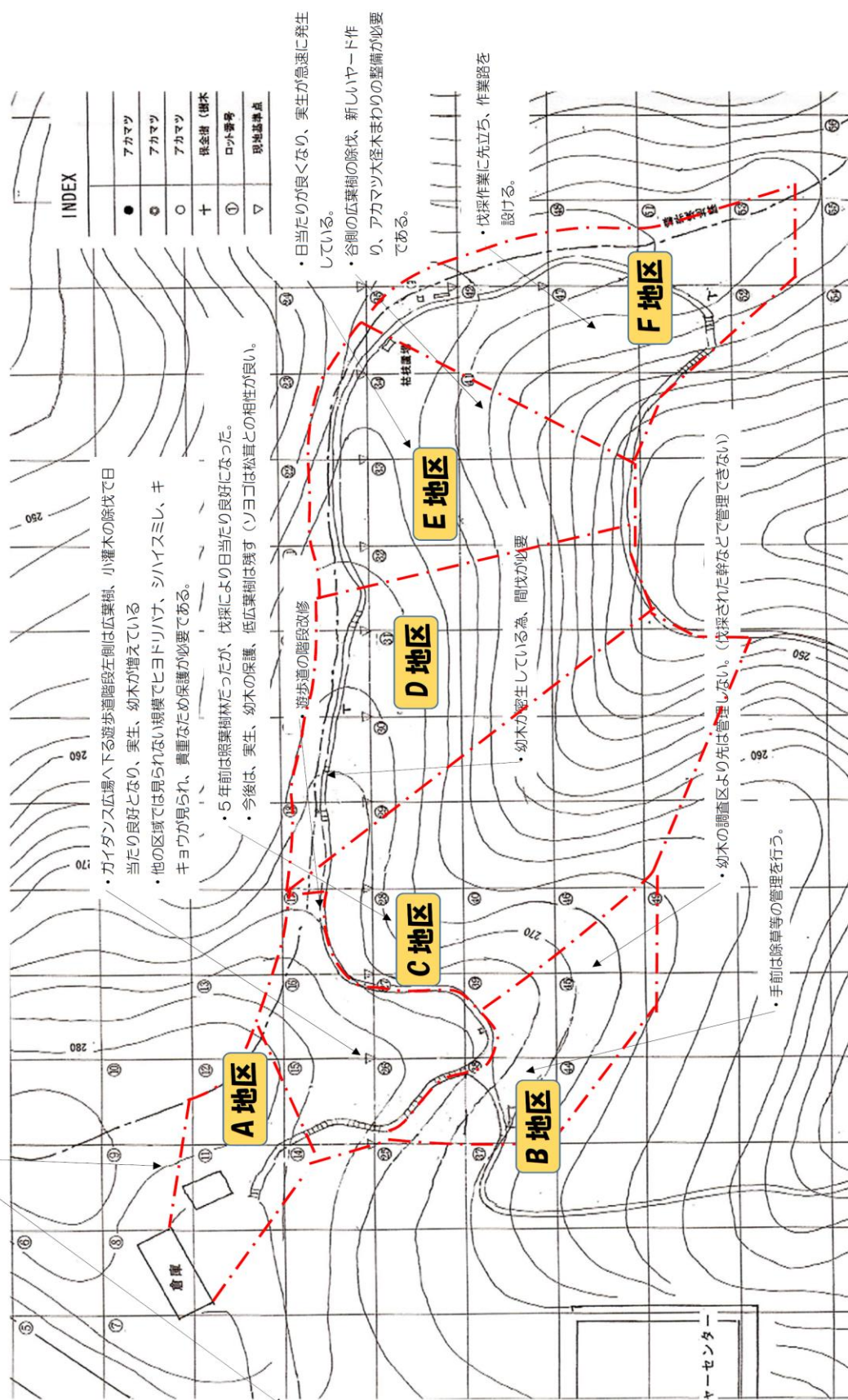
アカマツ林五ヶ年保全計画図

アカマツ林五ヶ年保全計画図 2019～2023

テーマ

いつも元気なアカマツ林
～幼木から大径木までのさまざまな成長段階が見られる森づくり～
夢は大きくマツタケの生える元気なアカマツ林

アカマツ林の入口は、誘導するサインの設置や遊歩道の左右を伐開して明るいイメージの入口にする。
炭焼き小屋裏を伐採してアカマツが見えるようにする。



油山のお仕事日記

「乙女系」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

雨の季節は、われわれ野外施設の管理者にとって悩ましい季節です。公的な施設の評価基準は来園者数である場合がしばしば。雨の日に市民の森へ行こう！とは、一般的になかなかならないものです。

けれども、雨の森ってほんとに素敵だなと思います。晴れの日が続いたあとは特に、草木が嬉しそう！に見えます。あんまりファンタジー系統の発言は恥ずかしいのですが、そう見えるので仕方ないです。

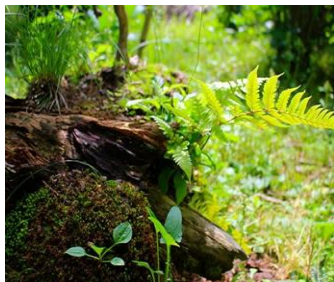
草木が嬉しそうだと、そこにいる自分も嬉しくなるもので、よしよし、じゃんじゃん飲みなさいよと心でつぶやきます。草木の緑もいかばかりか濃いようです。

においもいいですね。雨のにおい。あれって何でしょう。登下校のにおい？夏休みのにおい？お留守番のにおい？なんだか自分だけの主観的な記憶がふわふわ漂ってくるので、このように文章に客観的に記すと、やはりどうもファンタジーです。

いい音もします。自然観察センターの前にあるマテバシイのかたい葉っぱに、クスノキの枝でふくらんだ大きな雨つぶが落ちるとカタカタかわいい音がします。おおーかわいいっ、と思ってマテバシイの落葉に近づくと、さしてる傘で雨つぶをさえぎってしまい、傘がポドポドポドと轟いて、ありゃ失敗、てへ、となったことがあります。雨音を聞く自分のかわいい行動も、文章にしてみたっては甚だ気持ち悪いことが今日わかりました。今後、ひかえて参ります。

雨の森はとても好きなのですが、その魅力発見が個人で完結してしまいがちです。多くの人と共有するにはどうしたらよいのかしらと考えた末に名案がひとつ。アートはどうだろう！アートを通じて、なんだかふわふわしたものを人に伝えることができるんじゃないか？素敵なものを素敵なままに表現できたら素敵だな！

そういうことを、もわーっと考える仕事をしています。自分、ファンタジー系ではありません。あくまで乙女系です。ああ忙しい。



リレーコラム

「夜の昆虫調査」

古寺 和恵

森会歴3年目の古寺です。高校2年生になる娘と一緒に参加しています。これだけは絶対に外せないよね 夜の昆虫調査！について熱く語ろうと思います。

娘は小学生のころからおムシを愛でていましたが、私はというと、何故かベランダで最期をとげる

セミが連日出ようものならもう洗濯物干せない、夜中にトイレに起きたときにGが出ようものなら布団に引き返し朝まで神に祈る、田舎の夫の家で就寝中に天井からムカデが落ちて首元からパジャマに入れようものなら家族から「自業自得」「罰が当たった」と言われる生活を送っていました。

そんな私が母子で一緒に学べるものをと森を育てる会に入会したところ、必然的におムシの耐性がついて、やだ可愛いじゃない…！と思えるようになり、しまいには毎年夏に行われるカブトムシの森昆虫調査でちびっこ諸君に交じり熱い夏をエンジョイするようになるとは。中でもトラップの頂点に立つ（と個人的に思っている）ライトトラップ、そこには魅惑の蛾ワールドが待っていました。

夕方、参加者でバーベキューを楽しんだ後、カブトムシの森の小屋へ向かいます。真っ暗な森にパッと光で照らされた真っ白い布が見えてくると、今夜はお祭り、もうわくわくがとまりません。私を蛾好きにしてくれた功労蛾は初めて手乗りにした「オビガ」です。よいしょと指に乗ってくれたあの感触は忘れられません。調査を行う7月の夜はスズメガが多く飛来します。お気に入りには前に飛び出た後翅がカッコいい「エソスズメ」。カブトやクワガタがお目当てのちびっこに手乗り蛾を勧め、蛾屋を増やそうと頑張っています。

日本におよそ6000種いるといわれている蛾。チョウと同じ鱗翅目の仲間です。1年を通し油山で蛾類調査をされている小藤さんによると、現在1000種以上の蛾を採集しているそうです。油山の森を育てる活動を通して、これからも様々な生き物に出会えたらこんなにうれしいことはありません。



うん・えー会報告

2019年3月9日(土) 9:30~16:00

林、鎌田、榎、松雪、山川、早川、砂田、小川 計8名

1. 役割決定、資料確認

2. 12~3月 活動報告 (会報第129号参照)

3. 9~12月 特別活動、对外支援活動報告

1/23(水) 椎茸櫓木作り、落ち葉掻き、炭焼き材作り

2/20(水) アカマツ林・ヤード作り、作業道作り

1/11(金) 柏陵高校環境科学コース・油山研修

生徒40名、先生4名、森会会員7名

4. 2018年度経過報告

4-1 会員数 38所帯・52名 (2019.3.8現在)

4-2 年間活動 22回 平均参加者 11.2名

特別活動 4回 平均参加者 6.3名

对外支援活動 1回 平均参加者 7.0名

4-3 「2018年度世話役活動の振り返り纏め」報告

4-4 会計報告 → 順調に予算執行されている

5. 2019年度審議

5-1 役員関連 会計担当の榎氏が退会されます。長期間に渡りその任を担当頂き深謝します。後任は人選中。尚、今後につき会計補助を小川氏に引き受けて頂く事に。

★2019年度からの会計処理(出金業務)は次の通り

①事前に内容を小川氏にメール

②「一般出納依頼票(領収証添付)」を小川氏に提出

*依頼票は領収証1枚につき1件とし、領収証は内容ごとに分ける(例:工具類と飲物は別々にする等)

③現金を小川氏より受領

5-2 会員関連

①登録費 ボランティア保険のプラン変更に伴う見直し

保険料 500円(天災ﾌﾗﾝ) ➡ 350円(基本ﾌﾗﾝ)

年会費 1500円 ➡ 1650円(保険料差額分を組込)

・家族会員:「年会費+保険料×人数」、他で保険加入済み会員:「年会費のみ」の考え方は従来通り

・災害ボランティア等に参加予定会員は保険料500円(基本ﾌﾗﾝは地震、噴火、津波が保険対象外の為)

②会員登録案内・会費振り込み(締切3/22)

5-3 活動関連

①日程、内容等は「活動予定」としてメール配信

・土、日のどちらが参加しやすいかは今後の課題

・納会の取り纏めは持ち回りでいい、買い出し、調理等は全員で担当することとする

・新項目:削り馬体験6/9、草木染め体験11/23

②世話役決定 前年度と同じ 計画表提出3/19迄に

③5ヵ年計画の審議・決定 「保全計画図」2枚

5-4 予算関連 助成金等は例年通り申請事務を行う

6. センター連絡事項 グリーンウッドワークの取組み

7. 発送作業 会報第129号、会費振り込み用紙他

活動予定(2019年7月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・えー会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間:9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森会スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)

でご参加ください。必要な持ち物は

いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ筆記

用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参くださ

い。

7月7日(日)(予備日7月13日(土))

カブトムシの森作業

草刈りとヒメヒオウギズイセン除去

7月20日(土)~21日(日)

カブトムシの森昆虫調査他

・昆虫調査

20日 18:00~ バーベキュー後にライトトラップ調査 <希望者は宿泊>

21日 9:30~12:30 ホイホイ&ピットファールトラップ回収とルート観察

・せせらぎ整備

21日 9:30~15:30 沢に入りながら石や砂利を動かし、水遊び場を整備

8月3日(土)カブトムシの森昆虫調査他

・昆虫調査 水棲昆虫観察、ホイホイ&ピットファールトラップ回収とルート観察

・せせらぎ整備 沢に入りながら石や砂利を動かし、水遊び場を整備

8月18日(日)木工教室★

夏休み森の工作教室:保全作業で伐採した材などを使って工作を行います。一般参加の方も募って行う森会の活動説明会です。

9月1日(日)油山自然観察とうん・えー会

・油山自然観察

ボランティアグループ「油山自然案内人の会」のみなさんと一緒に自然観察を行います。

次週に案内人のみなさんが開催する「おとなのかんさつハイキング」の下見に同行する形です。

・うん・えー会

7~9月活動報告、10~12月活動予定、上半期活動実績報告

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』 季刊発行

編集担当:川上寛、国広信幸、鎌田隆、静間純、

松雪清人 印刷担当:小川真樹
